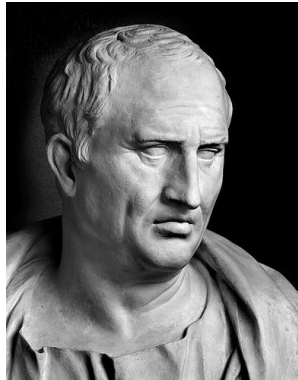


# 『Mind Charging』

第 139 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 10 月 26 日

## キケロの名言



### **Any man can make mistakes, but only an idiot persists in his error.**

どんな人間でも間違いをしでかすということは十分あり得ることだが、

愚者だけが間違いを改めようとはしないものである。

この言葉の通り、間違いは誰にでもあると思います。そして、『なんでこんな間違いを・・・』と、反省することは非常に大切だと思います。反省とは、『一般的には自分がしてきた行動や発言に関して振り返り、それについて何らかの評価を下すこと、あるいは自分の行動や言動の良くなかった点を意識し、それを改めようと心がけること』とあります。大切なのは間違いを受け入れ、今後同じ間違いを繰り返さないために分析し、実行することが反省なのです。

この言葉では愚者は間違いを改めようとしないとありますが、きっと反省ということについての理解が十分ではないだけだと感じています。人間は感情も記憶も豊かな生き物です。大きな愛情で謝罪を受け入れてはくれますが、『今後、注意してくれるのであれば』という前提があるものです。間違いを起こすことは、きっと大切な誰かを傷つけてしまうと考えるだけで、間違いを改めようとする姿勢や間違えないための意識の向上に繋がるはずです。素直に反省する気持ちは大切な仲間が増えれば増えるほど高まるものなのかもしれませんね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

マルクス・トゥッリウス・キケロ(ラテン語: Marcus Tullius Cicero, 紀元前 106 年 1 月 3 日 - 紀元前 43 年 12 月 7 日)は、共和政ローマ末期の政治家、弁護士、文筆家、哲学者である。ラテン語でギリシア哲学を紹介し、プラトンの教えに従う懐疑主義的な新アカデミア学派から出発しつつ、アリストテレスの教えに従う古アカデミア学派の弁論術、修辞学を評価して自身が最も真実に近いと考える論証や学説を述べ、その著作『義務について』はラテン語の教科書として採用され広まり、ルネサンス期にはペトルルカに称賛され、エラスムス、モンテスキュー、カントなどに多大な影響を与えた。(Wikipedia 参照)